

夕張川かわら版

「夕歩道」とは
夕張川と流域住民をつなぐ
川の道です

夕歩道

平成23年春

其の
一八

ついに夕張川に サケ、サクラマスが 帰ってきた!!

清幌床止については魚類等の生息環境を向上するために、本年3月に魚道の改良を行ったところですが、9月15日の夕張川での環境調査（魚道の効果を確かめるための調査）において、清幌床止の上流地点（栗沢頭首工下流）でサケ2匹（65cmと71cmのオス）の溯

上を確認しました。この時点でサケが確認されたことで、清幌床止の魚道効果が実証されたことになりました。また、調査ではサクラマスの魚体も数匹確認していますが、サクラマスの生態から見ると2年前から始めている放流魚が帰ってきた可能性がります。



9月15日(水) 栗沢頭首工【サケ】



栗沢頭首工

参考:サケ、サクラマスの放流実績

夕張川流域でのサケ、サクラマスの放流実績です（事務局調べ）。放流場所は、中流域の支流（阿野呂川、雨煙別川、ヤリキレナイ川等）ですが、これ以外に南幌町の南幌小学校が2006年まで200匹程度を清幌床止で放流していたという記録があります。

2008年4月	サケ	3,000匹
2008年6月	サクラマス	10,000匹
2008年10月	サクラマス(魚卵)	100,000粒
2009年4月	サケ	4,000匹
2010年4月	サケ	10,000匹
2010年7月	サクラマス	10,000匹
2010年10月	サクラマス(魚卵)	7,000粒

サクラマスとサケの生態の比較

項目	サクラマス	サケ
産卵期	9~10月	9~12月
産卵場所	●上流域の平瀬や淵尻の水が浸透しているところ。 ●河床に砂利があるところ。	●中流域の平瀬の湧水の出ているところ。 ●河床に砂利があるところ。
婚姻色	黒ずみピンク色の大きなまだら模様が見られる。	赤紫色の小さなまだら模様が見られる。
婚姻期のオスの写真		
河川での生活	孵化、浮上後、川で約1年半生活する。河川残留型、降海型に分かれる。	孵化、浮上後、川を約2カ月かけて下り海へいく。
川の降下時期	時期5~6月	時期3~5月
降下時期の体重	20g	0.5~1g
海洋回遊範囲	オホーツク海、近海	北太平洋の広範囲
海洋生活期間	1年	1年半~6年半
川の遡上について	川へ遡上後、淵で3~5カ月過ごす。	海から川へ入り、一気に上流の産卵適地まで遡上する。

参考:北海道立総合研究機構 水産研究本部 さけます内水面水産試験場資料

夕張川の生き物で「サクラマス」

今回の夕張川の生き物たちは、夕張川で2年前から放流され、今年遡上が確認されたサクラマスです。サクラマスはサケ科サケ属の魚で、その生活史の違いから「降海型、河川残留型」の2つに大きく分類されます。川で生まれた後、1年程度をそのまま川で過ごし、海に下るものと川に残るものに分かれます。海に下って海洋生活を営むサクラマスを「降海型」、川に残るものを「河川残留型」といいます（北海道で一般的にヤマメと呼ばれるものです）。海で1年を過ごした「降海型」サクラマスは、春に川を遡上し3~5ヶ月淵に潜み、卵の成熟を待ちます。夏から秋にかけて、増水したときに川をさらさらのぼり、上流の平瀬や淵尻の水が浸透している場所で産卵します。繁殖期になるときれいな桜色がかった婚姻色が現れますが、これが名前の由来になったという説もあります。ちなみに北海道で獲れたサクラマスの一部は富山県へ出荷され、名物「ます寿司」になっていたりするので、姿や生態が似ているサケとよく間違われることがあります。その違いを左の表にまとめてみました。

これまでの会議の振り返りと今後の方向性について

~事務局からの「今後の当面の会議テーマを「河川利用」としたい」という提案を受けての意見交換~

「予算が少ない中、いい川を作るには河川管理者と地域が協力するしかない。本当の意味での河川利用とはどういうことか、生き物にも子ども達にとってもいい川を作るにはどうするかを考えることが重要。河川利用といっても、範囲が広いので的を絞って考えたい。」
「現在の河道形状や流況が昔と比べてどうなのか、どう変わってきたのかという分析」、「水位変動が大きいこととどうつきあうかを考えること」、「実際に川を下ったり歩いたりしながら現地を確認し、様々な情報を平面図等で整理する作業」が必要という意見がありました。

〈規約改定の提案〉
流域会議の意見交換や勉強会によっては、関連する団体、専門家、オブザーバーを招聘できるように規約を改訂したい。⇒委員承認

〈その他〉
~青年会議所からの以下意見を受けての意見交換~
「サケ稚魚放流が4年目になり、今年は放流したサケが帰ってくる時期を迎える。町長も地域住民もやる気になっているので何か行動を起こしたい。例としてバケツリレーでのサケの堰越えは可能か。またサケが遡上できるようになった将来の話ではあるが、例えば採卵場やトバ工場の展望はあるか。」

- サケを移動させるということになるバケツリレーは漁業の規制上難しいが、調査の一貫として採捕許可をとって速やかに放流するという形で、道内の幾つかの河川でサケ捕獲が行われている例がある。
- 人工採卵自体は難しくないが、(水温が重要なため)湧水が確保できるかどうか問題。卵が発眼すれば水道水でも大丈夫だが、それでは水質にも注意する必要がある。

◎日時:平成23年2月17日(木)
◎場所:江別河川防災ステーション

第21回夕張川流域会議では、これまでの議論を振り返り今後の会議の方向性について意見交換した結果、「河川利用」をメインテーマに意見交換を続けていくことになりました。また必要に応じて関係者、専門家をオブザーバーとして招くことが承認されたほか、夕張川の歴史や、現地の状況確認の必要性が提案されました。また、サケ放流が4年目を迎え、サケを上流へ移動させることができないか、将来、採卵やトバ工場を検討できないかといった意見も出されました。



会議の様子

第21回 夕張川流域会議 開催

◆夕張川流域会議の詳細は

札幌開発建設部HP (<http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/>) から → 河川 → 江別河川事務所 → 夕張川流域会議

夕張川フォーラム 「夕張川魚道シンポジウム」

◎日時:平成22年10月29(金)、30(土)
◎場所:29日 栗山町いきもの里ふれあいプラザ
30日 雨煙別川支流高橋の沢、築別川

清幌床止の魚道が改築され、サケ、マスの遡上が調査で明らかになったことを受け、「夕張川魚道シンポジウム」が開かれました。基調講演では、流域生態研究所の妹尾氏より、他の魚道事例を紹介しつつ、夕張川に相応しい魚道について話がありました。パネルディスカッションでは、夕張川水系の主な産卵場となる阿野呂川、雨煙別川にサケ、マスを遡上させるために、流域自治体の交流、農業関係者との連携等について意見が出されました。翌日は、サクラマスの魚卵放流が築別川で行われました。



放流作業の流れ

- ① サクラマスの産卵適地(参照:夕張川の生き物たち)を探し
- ② 穴を掘り
- ③ 卵(発眼卵)を入れて
- ④ 礫をかぶせていく

産卵適地の条件 写真・赤丸点線
○上流からの水流が川底に浸透し、点線部付近で湧き出ている。
*左写真の場所は、川岸の植物がせり出し影があるため、産卵中に危険を感じたら避難することができ、さらに好条件になっています。



産卵適地

発行:江別河川事務所内 夕張川流域会議事務局

〒067-0074 江別市高砂町5 電話:011-382-2358 FAX:011-382-3857 <http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/>

川の指導者養成講座 開催

◎日時：平成22年10月11日(月)
 ◎場所：栗山町ハサンベツ川
 ◎参加者：RAC認定資格者、川の活動に携わっている・今後携わりたい方

6月に行われた川の指導者養成講座では、川の歩き方や川流れの方法、川の形態と活動場所の選び方等についての講座がありました。今回は植物を使った魚捕りの道具づくり挑戦してみました。作り始めるとみんな無我夢中。一言もしやべらずに作業に没頭です。植物の名前も覚えられ、作業も簡単なので子どもでもできることがわかりました。

採集した生き物

- ヨシ ●オオアワ
- ダチソウ ●オオヨ
- モギ ●アブラガヤ
- (セイタカアワダチ
- ソウ ●オオハンゴ
- ソウなどOK



☆仕掛けの作り方☆



↑園芸用の枠(緑色)を骨組みにして材料の茎を一本づつ、タコ糸で留めていきます。

↑茎を一回り編み込んだら、胴体の真ん中や後ろ部分をタコ糸で編みこみ。

↓完成です。

☆作った仕掛けで魚捕り☆



仕掛けを川に沈めてスタンバイ!

上流から魚を追いつくと...

たくさん獲れた

ハサンベツ川の仕掛けで捕れた魚・甲殻類

- エゾウグイ ●ウグイ ●フクドジョウ ●トウヨシノボリ ●ギンブナ ●ドジョウ
- ジュズカケハゼ ●スジエビ

*講座では、自然保護、資源の保護の観点から内水面漁業調整規則により禁止されている漁具、漁法、期間があることも学習しました。(製作した仕掛けは、漁業調整規則に触れないように、口径40cm以下として、道具の内部には「返し」をつけていません。)

一番人気は、大きな顔のハナカジカ

◎日時：平成22年9月7日(火)
 ◎場所：ホルカクルキ川(夕張市紅葉山)
 ◎参加者：夕張市立のぞみ小学校1、2年生 15名

夕張市のぞみ小学校の児童がホルカクルキ川で学習活動しました。ホルカクルキ川は8月末から雨が多く増水が続いていましたが、この日もその影響で茶色く濁っていました。でも児童たちには、水の濁りは気にならないようで、魚捕り、川流れに大喜びでした。エゾウグイ、ウグイ、フクドジョウが多く、ハナカジカもいつもよりたくさん獲れたようです。特にハナカジカの大きな顔は、児童達に大人気でした。

採集した生き物

- エゾウグイ ●ウグイ ●フクドジョウ
- ハナカジカ ●モツゴ ●イバラトミヨ ●スナヤツメ

子ども達の感想

子ども達の絵日記より

「魚のとりがたをおしえてくれてありがとう。」

「ハナカジカの顔が大きかった。」

「川の水が濁ったのがよかった。」

「魚がたくさんとれた。」

「たのしかったのでまたやらせてください。やくそくです。」

「またあったら教えてください。」



魚道の見学に行ってきました。

◎日時：平成22年10月2日(土) 3日(日)
 ◎見学場所：名寄方面、愛別方面

栗山町の有志が名寄、愛別方面の魚道見学へ行ってきました。清幌床止の魚道改良が終わり、サケ、サクラマスの上が確認されましたが、上流の頭首工に魚道を造るとすれば、どのような魚道がもっとも適しているのかをテーマに、構造や工夫点を見学しました。

台形型の魚道：20線堰堤(天塩川)、真熟別頭首工(名寄川)




赤点線部分が斜めになっていて、台形型の断面になっています。左下の写真の赤点線部に泡のない水流があります。魚はここを遡上するそうです。右下の写真は真熟別頭首工の出口ですが、黄点線部で石を組み水流を発生させ、魚を呼び込んでいます。

魚道水路内に石組みがあります。

魚道の入口付近



バイパス式の魚道：北電取水施設(ベンケニウブリ川)



取水施設の upstream と downstream をコンクリートブロックの魚道水路が迂回するように結んでいます。魚道水路内の所々に石組みがあります。魚道内には砂利がたまりサクラマスやカラフトマスが産卵したそうです。魚道上流の支流では産卵を終えたサクラマスも確認しました。

川の学習 手引き書

作成のための会合

◎日時：今年度3回の会合が開かれ、歴史文化に関する資料収集とフィールドワークの実施が提案されました。夕張川流域の歴史文化に関する資料としてまとめられたものがないことから、この会合が中心になって古老への聞き取り等しながら作業を進めていくこととなりました。フィールドワークの提案は、手引き書を利用する者が夕張川のことをよく知ること、実際の夕張川に触れてみるのが大切との意見が発端になりました。川の成り立ちや地域との関わり、流域の生物を四季毎に観察する等、複数のフィールドワーク案について話し合われました。

今年度3回の会合が開かれ、歴史文化に関する資料収集とフィールドワークの実施が提案されました。夕張川流域の歴史文化に関する資料としてまとめられたものがないことから、この会合が中心になって古老への聞き取り等しながら作業を進めていくこととなりました。フィールドワークの提案は、手引き書を利用する者が夕張川のことをよく知ること、実際の夕張川に触れてみるのが大切との意見が発端になりました。川の成り立ちや地域との関わり、流域の生物を四季毎に観察する等、複数のフィールドワーク案について話し合われました。



《主な意見》

- ▼夕張川の歴史文化に関する資料の収集整理は、メンバーの高齢化でできなくなっている。流域全体に関わることで、河川事務所が音頭をとってこの手引き書の会合の中で行うのがいい。
- ▼河川事務所で作成した夕張川の情報マップをホームページに掲載する。
- ▼フィールドワークの目的は、参加する人同士が共通の知識、知見を持つことだ。意見交換でまとめられたテーマ毎に次年度からフィールドワークを行えばいい。
- ▼原則、四季毎にフィールドワークを行いたい。春は、宿泊して集中して行い、秋、冬は春を補完するようなフィールドワークを行ってはどうか。町民を参加対象とすることも検討する。
- ▼NPOくりやまが運営主体となつて、後援、協賛という形でいろいろの団体が協力することも考えられる。雨煙別の既存施設の利用も検討したい。
- ▼夕張川の歴史文化に関する資料収集をこの会合が中心になって行う。
- ▼夕張川をよく知るために、フィールドワークを行い、手引き書作成につなげる。